

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900149		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋二子		
所在地	千葉県船橋市二子町629-2		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成29年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外食や外出の機会を増やし、社会・地域から孤立しないよう支援している。</li> <li>・利用者個々のニーズを把握し、個別ケアを実施している。編み物や手芸など。</li> <li>・利用者のみでレクを行えるよう工夫し、日々の生活に楽しみを持ってもらう。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>10年目を迎え、開所当時からの職員など在职年数の長い職員が多く、入居者・家族との信頼関係が築けており、家族の協力も得られている。初詣や動物公園などの外出イベントや回転ずしなどの外食イベントを毎月実施し、社会や地域との触れ合いを大切にしている。入居者一人ひとりのニーズに合わせ、マージャンや編み物や手芸などを楽しんだり、面会に来た家族と馴染みになり一緒に合唱するなど日々楽しみを持って生活する支援に取り組んでいる。新ホーム長の下、モニタリングの実施等職員のケアプランへの参画意識を高め共有し、一人ひとりの入居者の個別自立支援にチームワーク良く取り組み続けることが期待される。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ol>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や毎月の目標を立て、夕礼時に唱和することで共有している。	法人の3つの運営理念とホーム独自に毎月の目標を決め、夕礼時に唱和し実践に努めている。特に言葉遣いを大切にし入居者一人ひとりがその人らしい穏やかな生活を出来るよう、また、入居者も職員も楽しく生活出来るよう第2の家族のようなホームを目指している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	目の前のドラッグストアに買い物に行ったり、近隣へ買い物・外食を毎月実施している。	地域の夏祭りに参加したり、小学校の自由学習に参加したり、職場体験を受け入れている。三味線や日舞のボランティアが来訪して一緒に楽しんでいる。目の前のドラッグストアでの買い物や散歩時に挨拶を交わすなど地域との交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症セミナーを毎年、千葉エリア主催でやっており周辺の事業者、近隣、家族へも案内し参加いただいた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご意見をいただき、スタッフで共有したりサービス向上に活かしている。	地域包括支援や在宅介護支援センター職員、訪問看護師や家族が参加して運営状況・行事や事故報告、研修への取り組みや職員状況などを議題として定期的に開催している。	今後、民生委員や町内会の方等地域の方の参加も呼びかけ、行事に合わせる等議題を工夫し、年間予定を事前にお知らせする等、2ヶ月に一度開催されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	船橋市の担当課と連絡は密にとっており、いろいろなアドバイスをいただき、ケアサービスに活かしている。	監査指導課や介護保険課担当者とは変更届けや手続き等随時相談し適切な助言を頂ける間柄である。また、研修案内等をメールでやりとりしている。地域包括・在宅支援センターの方は毎回運営推進会議に出席いただき取組や現状をお伝えしている。市のグループホーム連絡会にも出席する等協力関係は築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のポスターを事務所に掲げたりユニット会議内で話をするなど、啓蒙活動をしている。 虐待、不適切なケア・身体拘束確認チェックシートを定期的実施	法人の方針で今年度、3ヶ月に一度虐待と身体拘束「ゼロ」に向けての研修を実施している。具体例を疑似体験して職員に考えさせる研修を行うとともに、「虐待・不適切ケアと身体拘束」チェックシートで各ユニットの現状を職員が輪番で2ヶ月に一度記入し本部に報告する等、身体拘束をしないケアの徹底を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを事務所に掲示し、啓蒙活動をしている。 虐待、不適切なケア・身体拘束確認チェックシートを定期的実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を実施しわかりやすく解説している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明とともに、ご理解と同意を丁寧に行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社全体でサービス満足度調査を年に1回、実施しており、いただいた意見を参考に改善している。	船橋二子通信で入居者の様子や健康医療状況等を写真入りで家族に毎月報告し、意見や要望を言っていただく一助としている。面会に訪れる家族が毎日のようにあり、気楽に意見や要望を言って頂いている。アンケートの回収率も高く家族の関心の高さが良く表れているとともに家族も支援者の一員として協力関係が築けている。法人で毎年満足度調査を行い、外部評価アンケートも含めて頂いた意見や要望は全体会議等で検討し、反映させるとともに職員間で共有するようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフへの満足度調査をWebで実施し、意見等を年度末に行われる事業計画会議で話し合っている。	ユニット会議等で出された職員からの意見や要望を大切に、運営に反映させるようにしている。法人として毎年職員満足度調査を実施し、職員から出された給与面や有給休暇取得等の意見を反映させるよう検討している。新ホーム長は職員一人ひとりの忌憚のない意見や要望を聞き反映させるために個別面談をしていく予定をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎の定期昇給、キャリアアップ制度の導入、お米の現物支給等、スタッフのモチベーションアップに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社3ヶ月の研修を事業部で取り組んでおります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会し、定期的な勉強会や交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>基本は各ユニットのケアマネ・計画作成担当者がアセスメントを実施している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>管理者と計画作成担当者が共有しながら、家族とのやり取りを行っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者・計画作成担当者・スタッフ・家族とじっくりカンファレンスを行い、支援の見極めを大切にしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とご利用者の絆を大切にしつつ、できる限り行事にお誘いしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>趣味仲間では麻雀、囲碁を楽しんでいただいている。</p>	<p>友人や元の住まいの近所の方が訪ねて来た時、お茶を出してゆっくりお話し頂けるようにしている。訪ねてきた友人と図書館に行く方や家族とお見舞い・法事や外食にいけるよう支援している。電話の取り次ぎや年賀状に一筆書いてもらうお手伝いや携帯電話で近所の方と連絡する支援をしている。毎日のように訪ねて来る家族と入居者が馴染みになり一緒に楽しそうに合唱したり談笑している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>麻雀などの趣味活動や、買い物と一緒に行く仲間など、利用者同士のつながりを特に力を入れて支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり経験がないところであるが、今後も退去した後の関係性の継続も続けていく。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人のニーズ把握に努め、支援できることを目指している。	入居者の希望や気持ちは一人ひとり異なり、日々変化があることを職員は常に意識して入居者と接することを心がけている。表情や動きの変化が見られた際は、さりげなく声かけを行い入居者が何を求めているのかを把握している。編み物や読書など一人ひとりの趣味を大切にして、これまでの生活の継続支援が行われている。意向の把握が困難な入居者には、家族の面会時や電話、メールなどでこれまでの生活ぶりや好みの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	管理者・計画作成担当者を中心に、ご家族や以前いらっしゃった施設職員からの情報に傾聴するよう心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のノートを作り、生活リズムを把握するなど一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議でユニットリーダー・計画作成担当者・介護スタッフがご利用者3名ずつカンファレンスを行い、短期目標の見直しや意見交換を実施している。	3ヶ月毎にケアプランの見直しが実施されている。歩行練習や外出を増やしてほしいなどの家族からの要望や住診医、訪問看護師からの意見を取り入れている。ケアカンファレンスでは、実施状況や達成度について職員間で話し合い、達成可能なサービス内容の変更など職員の意見を反映したケアプランが作成されている。個人記録の表紙には、短期目標・サービス内容が添付され、職員が常にケアプランを意識して支援できるように工夫している。	ケアプラン作成への職員参画の取り組みとして昨年まで実施してきた全職員によるモニタリングの再開に期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に日々の様子や情報を残して、ケアカンファレンスの際に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	機会は少ないが、サービスが一元化しないよう、ご利用者やご家族の意見やニーズに柔軟に対応できる準備を日々、おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いきいきサロンにおよそ月1回訪問し、地域住民と交流を図ったり、グループホームの内情を知っていただく場として活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所が提携している往診医にかかることを必ずしも強制せず、これまで利用していたかかりつけ医を継続していただいたりしている。	ほとんどの入居者が月2回の往診医を受診している。また、訪問歯科・訪問看護を毎週、利用している。事前に前回の「往診時の記録」を往診医にFAXで送付し、円滑に受診できるように配慮している。受診時には職員が立会い、処方薬の変更や指示事項などを記録し、職員間の情報共有を図っている。症状の変化や薬の変更などは必要に応じて電話やメールで家族に報告し、毎月の「船橋二子通信」でも受診結果の詳細を家族に伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護を利用しており、日々の体調変化の相談等、体調管理に努めていただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の窓口として、基本はホーム長(管理者)がやり取りを行っている。入退院時やご家族とのやり取りもホーム長が行うルールとしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの指針について、契約時に説明と同意を交わしているが、必要に応じて都度、家族に説明したり、往診医・家族・ホーム・訪問看護でカンファレンスを実施している。	看取り介護を含む重度化した場合の対応についての事業所の指針を、入所時に入居者・家族に説明し同意を得ている。24時間対応の主治医、看護師、事業所の看取り体制があり、この1年間で1名の看取り介護の実績がある。家族から看取りの意向が伝えられ際は、あらためて事業所の対応について説明している。家族、主治医、ケアマネジャー、職員がカンファレンスで話し合い、ターミナルケアプランを作成し支援に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時対応の研修を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後、災害発生時の訓練を近隣住民にも協力をいただき、実施していきたい。	1階からの出火および2階からの出火を想定した夜間避難訓練を年2回実施している。1階、2階の夜勤対象者2名により、消火・通報・誘導の訓練を実施している。訓練後は、階段を利用した避難誘導法や見守りの必要性など課題を見つけ対策を図っている。事業所から近い職員を優先した緊急連絡表が作成され緊急時対応が図られている。今後、自治会を通じて地域住民へ見守りなどの協力を要請していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の言葉遣いなど、スタッフには個別に指導を行っている。	利用者であると同時に家族として接するように職員は常に心がけている。家族の同意のもと、その人の性格に合わせて他人行儀ではなく親しみのある言葉使いに配慮している。編み物や読書など好みの趣味を自由に楽しみ、一人ひとりの思いを大切にしたい支援が図られている。トイレや入浴時には同性介助など羞恥心にも配慮し、職員の不適切な言動に接した際は、ホーム長やリーダーがその場で職員への指導を行うように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に決めていただくよう、選択肢を準備するようスタッフに指導している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを優先するよう、できる限り支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の実施が難しいが、家族で外出の日やご利用者同士での外出の日には、お洒落な洋服を着ていただいたり支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、包丁で切る作業、味付け、盛り付け、後片付け、食器洗い、食器拭き等、できることを分担して参加いただいている。	献立の食材にまつわる思い出話など、入居者同士が会話をしながら楽しく食事をしている。また、食事の時はテレビを消して音楽を流し、ゆっくり食事を楽しむように配慮している。近くのスーパーへの食材の買い物や食後の下膳、食器洗い、食器拭きなどを手伝っている。入居者の希望を聞いて回転ずし店や蕎麦屋、和食レストランへの外出を行っている。節句や夏祭り、クリスマス会などではチラシずしなど季節感を味わえる食事を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が立てたメニューを実施し、水分量は記録を付け、スタッフが日々の推移を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、声かけして促したり、介助が必要な方はスタッフが行うなどの支援をしている。また、毎週水曜日に訪問歯科に入っただき、指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記載し、排泄パターンをスタッフで共有している。	各ユニットの3カ所のトイレには、座位姿勢を支えるための跳ね上げ式手すりなどが設置され、安心して排泄できるように配慮されている。筋力維持のために体操や廊下の歩行、散歩をケアプランに取り入れ、トイレでの排泄につなげている。半数の入居者が自立してトイレでの排泄ができています。タイミングを見計らった声かけや落ち着きがない表情、動きをつぶさに観察することによりスムーズなトイレへの誘導が行われ、排泄の失敗を少なくしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きなこ牛乳、ヨーグルト、水分量などに気を配り、なるべく下剤を使わない自力排泄を目標に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	シフト調整及び安全の確保のために、やむを得ず曜日を指定しているが、入浴実施時間はなるべく利用者の希望を傾聴している。	原則午前中に週2回の入浴を実施しているが、気分や体調に合わせて時間帯の変更に随時応じている。また、一番風呂を希望する入居者にも対応している。入居者が「入浴表」に自分で丸印を記入し、入浴への関心を高めている。脱衣室と浴室の温度差をなくし健康管理に注意を払っている。入浴中は職員が話しかけ、思い出話や一緒に歌を歌うなど安心して入浴できるように支援している。入浴剤や季節ごとのゆず湯、菖蒲湯で楽しい入浴が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に自分の意思で動くことのできないご利用者様で、昼寝をしていただいたり場所を変えて過ごしていただく等の支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表は全ての職員が把握できるキャビネットに入っており、理解するよう指導をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者個々の嗜好品や趣味、楽しみごとを把握し、タイミングをみて支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩・買い物支援を実施している。	近くのスーパーへおやつや食材の買い物など、これまでの生活の継続につながる外出支援が図られている。川周辺の散歩時には公園で遊ぶ子どもたちに挨拶をしたり、道端の草花を摘んで楽しんでいる。知人と一緒に図書館への外出やカラオケ店、甘味店を訪れるなど一人ひとりの希望に合わせた外出支援が行われている。また、初詣や動物公園、菖蒲園など季節ごとの外出イベントも実施している。家族と一緒に親族の法事に参加したり、和風レストランやラーメン店での食事にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者とスタッフが買い物に行く際、財布を預けてお金のやり取りをしていただくご利用者もいるが、全てのご利用者様に実施は行えていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援も日常的に実施している。 入居者が携帯電話を持参されています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な環境づくりを利用者とスタッフが協同して行い、居心地の良い空間を目指して努力している。	入居者同士がテーブルやソファで楽しく会話を楽しみ、1階と2階の入居者の行き来もみられる。新聞を読む人、トランプやマーじゃんを楽しむ人など思い思いに過ごしている。入居者が書いた献立表やタンポポの貼り絵、バレンタインの花飾りなど職員と一緒に作成した季節ごとの作品がリビング、廊下に掲示されている。リビング、廊下の掃除や片づけなどに入居者も積極的に手伝っている。施設内の畑では入居者が手伝って、トマトやキュウリ、ナスなどを栽培している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの設備上、一人になれる空間がないが、ソファに座ってくつろいでいただいたり、居室で一人読書するなどの支援をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者本人の馴染みの物、タンスや鏡台などを配置いただき、自分の部屋との認識を少しでもしていただけるよう工夫している。	これまで使っていたタンス、椅子、化粧台などの家具や家族の写真などが家族の協力で自由に持ち込まれている。また、読書の好きな入居者の家族には月刊誌の購入などを依頼している。エアコンや家具、ベッドのレイアウトの変更にも家族の意見を取り入れて対応している。居室の前には大きな名札や花の飾りが取り付けられ、入居者が混乱せずに入室できるように配慮している。職員が入居者を手伝いながら居室の掃除を毎朝行い、清潔な居室づくりに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアでカーテンレールに洗濯ピンチを掛け、洗濯物をご利用者に座りながら干していただくなど、支援している。		